



2024年7月16日

三井住友海上火災保険株式会社
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
Tractable Ltd.

～住宅の適切な維持・管理を促進し、火災保険の引き受けを高度化～

A I 画像分析による建物損傷箇所の診断サービスを提供開始

MS&ADインシュアランスグループの三井住友海上火災保険株式会社（代表取締役社長：船曳 真一郎）、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：新納 啓介）、ならびにTractable Ltd.（CEO：Alex Dalyac、以下「トラクタブル社」）は、本日より、お客さまが撮影した住宅の外観写真をAIが分析し、損傷の有無等を診断したレポートを提供するサービスを開始します。本サービスの提供を通じて、お客さまの住宅の適切な維持・管理を後押しするとともに、損傷状況等の蓄積データを活用することでアンダーライティング力の向上を目指していきます。

1. 背景

日本の住宅を取り巻く環境は、多発・激甚化する自然災害をはじめ、インフレ等による建築価格の高騰、人口減少に伴う空家の増加など、さまざまな課題を抱えています。これらの解決には、住宅の定期的な診断とメンテナンスにより、良好な状態を保ちながら長く住み続ける必要がある一方、「住宅を定期的に診断し、管理する」という意識が定着していないという課題があります。また、火災保険の支払保険金は、建築からの経過年数に応じて増加する傾向にあり、大規模な自然災害が発生した場合には、その傾向が顕著に現れます。このような中、3社は、住宅の外観写真を撮影するだけで、お客さま自身で簡単に住宅の状態を確認できる診断サービスを開発しました。

2. 本サービスの概要

戸建住宅等の所有者を対象に、お客さまがスマートフォン等の専用アプリ※1で撮影・送信した住宅の外壁や雨どいの画像をAIが分析し、検知した建物の損傷箇所等を「診断結果レポート」として無償提供します。

3社は、火災保険の損害サービス領域における「建物損害額算出システム」で協業※2しており、本システムで活用実績のあるトラクタブル社のAI技術を活用することで、精度の高いレポートの提供を可能にしました。

※1：三井住友海上「スマ保」、あいおいニッセイ同和損保「あいおいニッセイ同和損保アプリ」の他、専用チラシに掲載する二次元バーコードからもご利用いただけます。

※2：【業界初】AIを活用した建物損害額算出システムの導入について（2021年7月13日ニュースリリース）

＜専用アプリの画面遷移イメージ＞



3. 今後の展開

本日より、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保は、両社の個人向け火災保険※³契約時に本サービスを活用した現況確認を開始します。お客さまに建物の損傷状況等を認識いただき、建物管理に対する関心や防災・減災意識の向上を図ることで、お客さまとともに安全・安心な住宅づくりを実現していきます。

また、本サービスで蓄積したデータを活用し、火災保険の安定的な引き受けを実現する仕組みを構築していきます。

※3：三井住友海上「[GK すまいの保険](#)」、あいおいニッセイ同和損保「[タフ・すまいの保険](#)」

■ご参考

<トラクタブル社の概要>

企業名	Tractable Ltd.
本社所在地	イギリス・ロンドン
事業内容	ロンドン・ニューヨーク・東京に拠点を設け、自動車事故や災害発生時の迅速な保険金支払いや損害復旧を可能にするAIソリューションを開発。自動車損害調査におけるソリューションでは1億枚以上の画像データ等をAIモデルに学習させ、北米・ヨーロッパ・アジアの10か国以上でソリューションを提供。

以上